



world diabetes day

14 November

11月14日は
世界糖尿病デーです。

世界糖尿病デー

千葉県医師会生活習慣病対策
支援委員会委員長
篠宮正樹 医師

今年も、11月14日の世界糖尿病デーがやってきます。この日は世界中でいろいろな建物をブルーにライトアップします。その目的は、世界各地で糖尿病の予防、治療、療養を喚起する啓発運動を推進することです。本県でも数箇所です。ライトアップが行われており、写真は昨年「成田赤十字病院」のものでした。同病院の松尾哲先生から戴きました。

昨今の糖尿病事情としては、患者数が増加の一途を辿っています。千葉県でも、糖尿病とその疑いを否定できない人が100万人いると考えられますが、治療を受けている人は、少ないのです。昨今の糖尿病治療は、安全に長く使える多種類の薬が揃ってきましたが、食事や運動など正しい生活療法を実行する必要があります。働き盛りの人やこれから社会で活躍する人が、糖尿病とその合併症によってその道を制限されてはなりません。高齢者が元気に暮らすためにも、糖尿病のより良いコントロールと、「予備群」とか「軽い」という言葉に油断しない注意が必要です。

糖尿病という病は、全く症状がなく放置しやすいのですが、進行すると歯周病、足の壊疽、失明や人工透析に至ります。心筋梗塞・脳梗塞、ある種の癌が増えます。認知症も4倍に増えます。千葉県では医療者全体で糖尿病を予防治療していくために、様々な取り組みがなされており、千葉県糖尿病療養指導士／支援士認定制度もそのひとつです。健診で糖尿病を指摘されたら放置せず、すぐかかりつけ医に相談しましょう。